

**議会報告** 警察官の採用情勢について

就職適齢人口の減少により、公務員や民間企業との人材獲得競争が一層厳しさを増す中、治安維持を担う警察官の採用も困難な状況にあるとの報道がありました。一方、治安情勢に目を向けると、昨年は県内で匿名流動型犯罪グループによるとみられる凶悪犯罪が連続発生し、令和7年上半期の特殊詐欺被害額も過去最悪となっています。県が実施した「令和6年度県政に関する世論調査」でも、地域の犯罪発生状況について「多くなったと感じる」と回答した県民が約47.5%と、令和4年度の約2倍に増加しており、県民の体感治安は悪化しています。

こうした中、県民が安全・安心を実感できる暮らしを維持するには、警察官の十分なマンパワー確保が不可欠であり、採用活動の強化が求められます。過去5年間の警察官採用試験では、応募者数・受験者数が減少し、合格後の辞退者は増加するなど、採用情勢は厳しさを増しています。直近では、本年5月実施の令和7年度第1回警察官採用試験が1,414人応募、1,008人受験、515人合格で競争倍率は2.0倍となっています。

この状況を踏まえ、県警では募集活動の強化と採用試験の見直しを進めています。具体的には、若者世代に合わせた体験型就職説明会の実施、採用専用のInstagramやXの開設など、SNSを活用した魅力発信に取り組んでいます。試験制度についても、今年度から「SPI3」の導入、受験上限年齢の引き上げ、資格加点対象の拡充を行っています。

今後の少子化を考えると、幼少期から警察官に憧れを持つ若者への働きかけも重要です。その際、警察学校などの施設が老朽化していると警察へのイメージ低下につながるため、施設や福利厚生改善による職場環境づくりが必要だと考えます。先日視察した東金の警察学校では、本館や寮など築39年が経過し老朽化が見受けられました。警察学校は基本的に国費で整備されており、本年はボイラー改修工事を予定し、来年度以降も空調や浴槽の改修工事を国に要求しています。一部は県費整備であり、本年度からは警察学校生徒寮整備事業を実施し、個室化と併せて内外装・空調設備・給排水設備などの大規模改修を行い、生活環境の改善と不足する寮室確保のための増築も計画しています。警察官の人材確保は、県民の命と暮らしを守る基盤です。国費が必要な事業については国への要求を確実にし、今後も県と国が連携して人材確保に取り組んでいくことが重要です。



**福利厚生と職場環境の改善**

「福利厚生の充実」「職場環境の改善」「キャリア形成支援」といった取り組みが求められます。近年の若者は「働きがい」と同時に「働きやすさ」も重視します。休日制度、ワークライフバランス、研修制度など、安心して長く働ける環境を整えることが、採用意欲を高めるカギになります。

**国との連携の必要性**

警察学校の改修や大規模な施設整備は、県単独では限界があります。国費を必要とする事業については、国に対してしっかりと要望し、予算を確保していくことが欠かせません。県と国が強力に連携し、人材確保と教育環境整備を進めることで、警察官の採用基盤を盤石なものにしていく必要があります。

**すみの意見&要望**

安全安心を守る警察官の人材確保は、県民の命と暮らしを守るための基盤です。警察学校については、採用された警察官が最初に教養を受ける場所であり、老朽化が進んだ場合、教育の質の確保や、入校者のモチベーションにも影響しかねません。国費を必要とする事業については、国への要求をしっかりと行っていくなど、引き続き警察官の人材確保に向けて、県と強力な連携を図っていただくことを要望します。少子化が進む中で採用環境は厳しくなりますが、だからこそ、「採用活動の工夫」「幼少期からの憧れ形成」「警察学校の改修」「福利厚生の充実」「国との連携」が重要です。安全安心を守る警察官を確保することは、千葉県未来を守ることに直結します。私は引き続き、県議会でこの課題を訴え、皆さまの暮らしを守るために取り組んでまいります。

**すみ隆仁チャンネル**

警察官について

コチラで更に詳しくお話ししています!

「わかった!!」「たのしかった!!」って思ったら、チャンネル登録といいね、よろしくおねがいします!

**千葉県議会議員(美浜区選出)**

驚 見 た か ひ と

**すみ隆仁**

**活動報告 2026年新春号**

昭和54(1979)年2月20日生 千葉市生まれ 真砂在住  
歯科医師 保護司

**学歴**

- ・国立 東京科学大学 大学院 在学中
- ・ジョージワシントン大学エリート国際関係大学院 日米リーダーシッププログラム修了
- ・日本大学大学院総合社会情報研究科 修士課程修了
- ・日本歯科大学新潟生命歯学部卒業
- ・市川学園(市川中・高校)卒業
- ・千葉大学附属小学校卒業

**経歴**

- ・自由民主党 千葉県千葉市美浜区第十二支部 支部長
- ・2019年 千葉県議会議員選挙 当選
- ・2019~20年 千葉県議会 環境経済委員会 副委員長を歴任
- ・2021年 保健消防委員会 副委員長を歴任
- ・2022年 保健消防委員会 委員を歴任
- ・超高齢社会調査特別委員会 副委員長を歴任、都市計画審議会 委員を歴任
- ・2023年 千葉県議会議員選挙 当選
- ・千葉県議会 文教常任委員会 委員を歴任
- ・2024年 健康福祉常任委員会 副委員長、自由民主党 千葉県議会 会計医療問題議員研究会 幹事、前工議員連盟 委員、生活衛生議員連盟 委員
- ・2025年~ 健康福祉常任委員会 委員、千葉県歯科口腔保健審議会 委員 など

**職歴**

- ・日本歯科大学附属病院 口腔外科
- ・防衛省市ヶ谷駐屯地 歯科医官
- ・篤見医院理事長 他、介護・保育園運営

**自民党 Lib Dems**



**2026年も千葉県の未来、そして県民の皆さまのいのちと暮らしを守る政治を進めてまいります。**

本号では、私の主な活動・取り組みや、2025年9月定例県議会での内容を報告いたします。9月の定例県議会では、県政全般にわたる質疑・提案を行い、医療・介護、防災・教育、地域インフラ整備などの課題について議論しました。現場の声を政策に反映させることを重視し、実効性のある施策の実現に向けて取り組んでおります。今後も、県民の皆さまの声を県政に届ける役割を果たしてまいります。

**令和8年度 千葉県予算のポイント**

令和8年度予算は、物価高対策、医療・介護・子育て支援、地域経済の活性化、防災・減災対策を柱としています。特に、医療・福祉の分野では人材確保と現場支援を重視し、県民生活を支える基盤強化に重点が置かれています。引き続き、持続可能な財政運営と県民サービス向上の両立を目指してまいります。

**活動・取り組み 性犯罪・性暴力根絶条例への取り組み**

千葉県における性犯罪・性暴力を根絶するため、私は県議会自民党内にて専門チームを2025年4月に立ち上げ、事務局長に就任いたしました。2025年末に、国立千葉医療センターにある「千葉県性暴力被害支援センターちさと」や鳥取県・大阪府を視察しました。千葉県性暴力被害支援センターちさとでは、後藤副理事長、産婦人科医の岡嶋先生、支援コーディネーターの佐藤様より、センターが担う役割やこれまでの活動内容について説明いただきました。支援を必要とする方々が安心して相談できる環境づくりの重要性を改めて実感しました。鳥取県では、AI技術を用いた性的ディープフェイク規制について、刑事罰導入を見送った背景や法的課題、行政罰による実効性確保の工夫など、制度設計の核心に踏み込んだ意見交換を行いました。専門家の知見をどのように条例に反映させたのか、そのプロセスには大変示唆に富むものでした。大阪府では、子どもを性犯罪から守る条例をめぐり、前歴者への届出制度や行動規制、市町村との連携、さらには厳正な対応と更生支援をどう両立させるかといった実務上の課題について、率直なお話を伺うことができました。先進的な条例や支援体制を調査・研究し、被害者支援の充実と加害防止の両輪で、今年度中に実効性ある条例制定を目指しています。今後も、県民の皆さまの安心・安全を守るため、制度設計と実務の両面から全力で取り組んでまいります。



**すみの意見**

昨今、教師をはじめとする、子どもたちに対して指導的・優位な立場にある大人による、生徒や教え子への性犯罪が相次いでいます。本来、子どもたちを守るべき立場の人間による行為は、決して許されるものではありません。私は、こうした被害に遭ってしまった、また、今まさに不安や恐怖の中にいる子どもたちを一人でも多く守りたい、その強い思いから、性犯罪・性暴力を根絶するための条例制定に取り組んでいます。

**活動・取り組み 千葉大学附属病院の赤字、県立病院の赤字について**



**県民の医療を守るため、現場と向き合う**

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、物価高騰、人件費の上昇、診療報酬制度の構造的課題などにより、多くの医療機関が厳しい経営状況に直面しています。このたび私は、千葉大学医学部附属病院および県立病院の赤字問題を受け、各病院長と直接お会いし、現場の実情と課題について意見交換を行いました。

**現場からは、**

- \* 医師・看護師等の人材確保の難しさ
- \* 高度医療・救急医療を担うことによるコスト負担
- \* 働き方改革と医療の質を両立させる制度上の限界
- \* 診療報酬と実際の医療提供コストの乖離

など、構造的な問題が率直に示されました。これらは単なる経営問題ではなく、県民の命と健康を守る医療提供体制の持続可能性そのものに直結する重要な政策課題です。

**すみの意見**

- \* 県による財政的・制度的支援のあり方
- \* 急性期・高度医療を担う基幹病院への重点支援
- \* 医療人材の確保・定着策
- \* 国への制度改善要望の強化

私は、上記の点について意見を交わし、実効性のある対策を講じていく必要性を確認しました。

高度医療を提供すればするほど、経営は赤字に近づき…。地域になくてはならない、高度で専門的な医療を担う公立病院の経営状況。この状況はこの国の医療制度そのものが抱える限界だと強く感じました。救急・重症・小児・周産期といった分野は、社会にとって不可欠であるにもかかわらず、現行の診療報酬制度では高度医療機関は採算が合いにくい仕組みになっています。あえて申し上げますが、私自身も内科クリニックを経営しており、院長も医師会に所属しています。その立場から見ても、「一律に保険点数を引き上げる」という議論には大きな違和感があります。保険点数を上げれば、私たちのような外来中心のクリニックにも税金が広く配分されます。しかし、それが本当に今、最優先で必要な支援でしょうか。国立・県立・公立病院、そして三次医療を担う医療機関はそこにしかできない高度医療を提供し、地域全体の医療の安全を支えています。にもかかわらず、同じ診療報酬の枠組みの中で、一般医療機関と一律に扱われている現状は明らかに不合理です。保険点数を1点引き上げるだけで、国民の負担は約2,500億円にのぼると言われています。それだけの負担を国民に求めるのであれば、なおさら使い道は慎重であるべきです。今求められているのは、一律の保険点数引き上げではありません。国が責任を持って、高度医療を担う公立病院や三次医療機関に対し、直接的な補助金や別枠の財政支援を行い、社会全体として高度医療を支える仕組みに転換することです。救急や重症医療を担う病院が、経営悪化によって機能低下や縮小を余儀なくされることは、最終的に国民全体の不利益につながります。命を守る医療を、制度としてどう支えるのか。千葉大学病院、県立病院、公立病院の現場を見て、その問いを突きつけられました。今こそ、現実に即した医療制度への見直しが必要だと、強く訴えたいと思います。今後も、机上の議論ではなく、現場の声に基づく医療政策を推進し、千葉県の医療体制を将来にわたって守り抜いてまいります。

**活動・取り組み 台湾・新北市視察について**



私が所属する政策集団千葉政経の有志メンバーにて、台湾・新北市を訪問し、侯友宜(ホウ・ユーイー)市長へ表敬訪問を行いました。新北市は、台湾北部で台北市を囲むように位置し、約404万人という台湾最大の人口を有する直轄市です。伝統的な製造業から先端技術、観光産業まで幅広い分野で発展し、スマートシティ化や国際的な企業誘致にも積極的に取り組む、非常に活力ある都市です。今回の訪問では、千葉県産の果物・野菜・魚・豚肉・鶏肉などの魅力を紹介するとともに、経済交流、文化交流、人材交流の可能性について意見交換を行いました。地域の強みを生かし、互いに学び合いながら、今後の連携につながる有意義な時間となりました。なお、今回の視察の様子は現地メディアでも報道され、千葉と台湾の交流への関心の高さを改めて感じました。今後も、地域の未来につながる国際交流を大切に取り組んでまいります。

